

174 過越しの食事(2) 弟子の足を洗う

ヨハネによる福音書 13 : 1~20

01 さて、過越祭の前のことである。→どれ位前であるかは不明

イエスは、(いよいよ) この世から父のもとへ移る御自分 (の最後の) の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

02 夕食のときであった。既に悪魔 (the devil : サタン) の手下で神の敵) は、イスカリオテ (→ユダヤにあるケリオテ出身の) のシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた (→吹き込んでいました)。

→ヨハネによる福音書 6 : 70~71

すると、イエスは言われた。「あなたがた十二人は、わたしが選んだのではないか。ところが、その中の一人は悪魔だ。」イスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは、十二人の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

【参考】イスカリオテのユダ Judas Iscariot

イエスはイスカリオテ (→ケリオテ出身の男の意味、もしくはうそつきの男、裏切り者の意味) のユダを愛し、信頼してお金を任せた (財務担当)。しかしユダは、食欲に走って歴史上の裏切り者となった。イエスは、彼の裏切り行為を知って、「わたしと一緒に手で鉢に食べ物を浸した者が、わたしを裏切る。人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」(マタイによる福音書 26 : 23, 24) ときびしく戒めている。最後にイエスはゲツセマネで、「友よ、しようとしていることをするがよい」(マタイによる福音書 26 : 50) とユダに告げた。イエスは彼を友と語りかけて赦している。イエスを銀貨 30 枚で売り渡したユダは、イエスに死刑判決が下ったことを知って後悔した。「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」(マタイによる福音書 27 : 4) と言って大祭司カイアファに銀貨を返そうとしたが、ユダヤ教の祭司たちは拒絶した。ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、自殺した。

03 イエスは、①父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、②御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、04 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ (→自分を脱ぎ棄てることを象徴)、手ぬぐいを取って腰にまとわれた (→へりくだりをもって縛られ、制限されることを象徴)。

05 それから、たらい (→盥 : 「手洗い」の転) に水をくんで (埃にまみれた一人一人の) 弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。

→足を洗うのは奴隷の仕事だった。イエスは奴隷の仕事を引き受け、弟子の足を洗った。足を洗うのは、この世の罪のために十字架で死ぬという、偉大な犠牲的行為の象徴である。

→当時 (埃っぽい道、サンダル履き) は洗足は必要不可欠な習慣であった。

①僕 (奴隷) に客の足を洗わせることは、お持て成しの一つであった。

②自分で足を洗う場合や、妻が夫の足を洗ったり、子供が父の足を洗った。



出典(図): Daily Devotionals

【一言】足を洗う (日本では少し違った意味で使われる)

賤しい務めを辞めて (例えば、やくざなどが組を辞めて) 堅気になる。悪い所業をやめて真面目になる。好ましくない仲間や仕事から離れて、まとも (真面) な生活をする。

06 シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「**主よ、あなた (のようなお方) がわたしの (ような者の) 足を洗ってくださるのですか**」と言った。

→ペトロ (ギリシア語)、ケファ (アラム語) : 岩

07 イエスは答えて、「**わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる**」と言われた。

→初めの「分かる」は内側の主観的な認識を意味し、次の「分かる」は、外側（十字架と復活）の客観的な知識を意味する。

08 ペトロが、「**わたしの足など、①決して②洗わないでください**」（→①②：二重否定）と言うと、イエスは、「**もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと・・・霊的な関係において・・・何のかかわりもないことになる**」と答えられた。

09 そこで（思慮に欠ける極端な性格の）シモン・ペトロが言った。「**主よ、足だけでなく、手も頭も。**」

10 イエスは言われた。「**既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。**」

→イエスを信じて、水浴（バプテスマ）した者は、全身を清くされ、罪が赦されているので、再度、体を洗い直す（信じ直す）必要はない、とイエスはペトロに言われた。

→ヨハネの手紙一 1：9

自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

【一言】洗足と聖餐

聖餐（式）は聖礼典（＝礼典、神の恩寵のしるしとして最重要視される儀式で、プロテスタント教会では、聖餐式と洗礼の二つをいう）とされるが、洗足（式）は、**当時**と今の生活環境（衛生面を含む）が大きく異なること、そして、教理上は別として、聖礼典の条件①～③を考慮しても、聖礼典に含めないのが一般的な見解で、最後は各個人の自由判断とするのが望ましい。

→聖礼典の3つの条件：①イエスが命じている、②初代教会から行われている、③書簡（聖書で洗足について記述があるのはヨハネ 13：5、6、8、10、12、14のみ）に行うことの意味が明記されている。

なお、聖礼典は、ギリシア語で「ミステリオン」、英語では「サクラメント Sacrament」、ラテン語では「サクラメントム sacramentum」と呼んでいます。

11 イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「**皆が清いわけではない**」と（ユダのことを）言われたのである。

12 さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び（食事の）**席**（→レクトゥス・トリクリナリス→ファイル No.173 を参照）に着いて言われた。

「**わたしがあなたがたにしたことが分かるか。**」

→洗足は、弟子たちに謙遜（心のあり方）を教えるための実物教育（教訓）でした。ユダは、イエスによる洗足を経験したにもかかわらず、洗足を行う霊的な意味を理解できなかった。

→フィリピの信徒への手紙 2：6～8

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

13 **あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。**

→主（キュリオス：ギリシア語）は、主人を意味し、呼びかけるときの尊称でもある。新約聖書では、「主」は神の称号で、イエスに対して使われる場合、イエスの神性と主権という二つの概念が含まれ、権威と力

を強調している。一般的には、奴隷や物の主人、持ち主という意味ですが、そこから、神、支配者、皇帝などを指すようになりました。

→フィリピの信徒への手紙 2 : 9

このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

14 ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。

→イエスに従わないなら、自分をイエスより高みに置くことになる。

16 はっきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。

17 このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

18 わたしは、あなたがた皆について、こう言っているのではない。わたしは、どのような人々を選び出したか分かっている。しかし、『わたしのパンを食べている者が、わたしに逆らった』(→聖書協会共同訳：私のパンを食べている者が、私を足蹴にした[→私にひどい仕打ちをした])』という聖書の言葉は実現しなければならない。

→詩編 41 : 10

わたしの信頼していた仲間／わたしのパンを食べる者が／威張ってわたしを足げにします。
→ダビデ王の顧問でありながらアブサロムの反乱に組したアヒトフェル (サムエル記下 15 : 12、31、34、16 : 15~17、23)

19 事の起こる前に、今、言うておく。事が起こったとき、『わたしはある』ということ、あなたがたが信じるようになるためである。

→わたしはある＝わたしがそれである (イザヤ書 40~55 章)。

20 はっきり言うておく (口語訳：よくよくあなたがたに言うておく／聖書協会共同訳：よくよく言うておく)。わたしの遣わす者を受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」

→神はイエスを派遣し、イエスは弟子たちを派遣する。弟子たちを受け入れることは、派遣したイエスを受け入れることであり、イエスを受け入れることは、父なる神を受け入れることである。

【参考】 聖書に登場する「わたしはある」

タイトル(書名)	章:節 聖句	【検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 <わたしはある>7個】	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) 【検索語彙 : わたしはある】
K 出エジプト記	3:14	神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」	
S ヨハネによる福音書	8:24	だから、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる、わたしは言ったのである。『わたしはある』ということ信じないならば、あなたたちは自分の罪のうちに死ぬことになる。」	
S ヨハネによる福音書	8:28	そこで、イエスは言われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。」	
S ヨハネによる福音書	8:58	イエスは言われた。「はっきり言うておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」	
S ヨハネによる福音書	13:19	事の起こる前に、今、言うておく。事が起こったとき、『わたしはある』ということ、あなたがたが信じるようになるためである。	

【参考】福音の三要素

私たちが救われるためには、「福音の三要素」を受け入れる必要があります。それは、キリストは、①私たちの罪のために死なれ、②墓に葬られ、そして③三日目に復活されたこと、の3つです。

→コリントの信徒への手紙一 15：3～5

最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。

すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおり①わたしたちの罪のために死んだこと、②葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり③三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

【参考】新約聖書に登場する「裏切り」

新約聖書には、「裏切る」という言葉が30回（旧約：45回）登場します。そして、その30の聖句の内、約9割を占める26回が「ユダの裏切り」について記していますが、残りの4聖句は下記の聖句です。このように聖書（新約聖書）では、「裏切り」は、①ヨハネ13：2にあるように、人の心にサタン（悪魔）が介入したとき（使徒言行録7：52）と②終末（終わりの時）の徴として起こることが分かります。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：4 / 聖句等の総数 33250 <裏切>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：裏切]
S マタイによる福音書	24:10 そのとき、多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。	
S ルカによる福音書	21:16 あなたがたは親、兄弟、親族、友人にまで裏切られる。中には殺される者もいる。	
S 使徒言行録	7:52 いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。	
S テモテへの手紙Ⅱ	3:4 人を裏切り、軽率になり、思い上がり、神よりも快楽を愛し、	